

佳作

嫌いだけど好きなこと

岩手県花巻市立矢沢中学校

2年 小田島 希愛

私は柔道が嫌いだ。柔道は疲れる。夏は暑くて蒸れる。冬は曇りが冷たくてかたくて痛い。体重は大公開。顔はすれるし足はあざだらけ。そしてなんといっても私の柄に合わない。もっと「かわいい」部活に入りたかった……。それでも私が柔道を続けている理由は、もっと強くなりたいからだ。

私が柔道を始めたのは、小学校5年生のとき。姉の友達が柔道をしている姿がとてめにかっこよくて、自分もこの先輩と一緒に柔道がしたいと思ったからだ。

しかし、いざ柔道を始めてみると知らない動きばかりでなかなかうまくできない。全然楽しくなかった。できないのが悔しくて、恥ずかしくてやりたくなかった。

少しずつ練習を重ねて、初めて出場したデビュー戦。県の大会で、正直いって怖いし、絶対負けると思って試合前から涙が止まらなかった。でも、いざ始まってみると意外と動けて、初めての試合で勝つことができた。コーチも家族もみんな驚いていたが、私が一番びっくりした。次の試合は負けてしまったが、チームの仲間のおかげであと一步で東北大会のところまで勝ち進むことができた。3試合目では、太ももを怪我してしまい、試合に出られなくなり悔しかったが、初めての大会で結果は団体3位。私はとても満足していた。

そこから本格的に練習をするようになって少しずつ勝ちたいという気持ちがでてきた。最初は、試合も練習も負けてばかり、投げられてばかりでつらかったけれど、少しずつできることが増えて勝てるようになってきた。

小学校6年生になると大会に出たらほとんどの大会で団体2位や3位をとれるまでに強くなった。そのとき私は、「もっと強くなって、東北大会、いや全国大会に行ってみたい!」と思うようになった。

柔道の練習は、つらいことも多いが楽しいこともたくさんある。乱取りで人を投げたときの快感。試合で勝ったらほめてもらえる。日曜日の部活で、暑い中がんばった後にみんなで食べるアイス。先輩といっぱいお話ししたり遊んだりする時間。私はとても楽しくて好きだ。真剣勝負で年齢関係なくお互いに本気でやる乱取りが楽しくて好きだ。みんなでドキドキしながら団結して挑む団体戦の試合が好きだ。そして試合に勝てたとき、練習の成果が出たのが実感できてうれしくて好きだ。

私は最近、すごく練習をがんばっている。今までは、先輩が勝ってくれたり、

補欠が多かったりで、勝たなければいけないという気持ちがありませんでした。けれど、7月で3年生が引退し、私たちが最高学年となった。小学生や後輩たちに指示を出し、見本になる立場で最高学年としての自覚、責任感が出てきて自分が勝って後輩をひっぱっていかなければいけないな、今までよりもしっかりした考えをもたなければいけないなと感じている。だから練習も今まで以上に自分に厳しくがんばっている。コーチや先輩の指示にはしっかり返事をして、声出しもしっかり声を出して、小学生の手本になるように心がけている。これから新しいキャプテンや部長が決まるため、自分がどちらになっても、しっかりと後輩をひっぱっていけるように努力していきたい。

部活動での今後の目標は、精神力、忍耐力などのメンタルを強化し、肉体的だけではなく精神的にも強くなること、先輩としてのリーダーシップを身につけること、日々の練習に励み、いつか絶対に全国大会に出場することだ。そのために、自分よりも強い相手に積極的にいく、自分に厳しく練習に励む、苦手なことから逃げずに何事にも挑戦するという三つを心がけていきたいと思う。

私は柔道が嫌いだ。けれど楽しいことや、うれしいこと、やりがいもたくさんある。また、今までの先輩たちよりも多くの大会で勝ち、良い結果を残すためこれからもたくさん練習を重ねて強くなっていきたい。